

総務企画常任委員会会議記録

1. 日 時 平成 28 年 9 月 20 日 (火)

午前 10 時 20 分 開会 午後 0 時 4 分 休憩

午後 1 時 00 分 再開 午後 2 時 40 分 終了

2. 場 所 第 2 委員会室

3. 出席委員 井田秀喜委員長、二木攻副委員長、高野哲郎委員、片山瞬次郎委員、
出戸清克委員、宮西健吉委員、宮川吉男委員、橋本米子委員

4. 欠席委員 なし

5. 委員会の議題

《上下水道局》

＜料金業務課＞ 議案第70号 平成28年度小松市公共下水道事業会計補正予算（第1号）

《総合政策部》

＜財政課＞ 議案第67号 平成28年度小松市一般会計補正予算（第2号）中送付部分

6. 委員長報告の要旨

これらの案件につきまして、活発な質疑応答を行い、終始慎重なる審査を行いました結果、全会一致をもって、いずれも原案どおり可決すべきものと決した次第であります。

以下、審査の過程におきまして、さまざまな意見や要望が出されましたので、その一端について御報告申し上げます。

■はじめに、(仮称) 公立小松大学について

平成 30 年 4 月に開学を予定しているこの (仮称) 公立小松大学については、国際文化交流学部、生産システム科学部、保健医療学部の 3 つの学部、入学定員 240 名でスタートすることが報告されました。しかし、定例会一般質問や予算決算常任委員会総括質疑でも複数の議員から質問が出ており、また、市民の方々からも大学設立に対する不安の声が寄せられています。当委員会と致しましても多くの委員より、新規大学として全国にアピールでき特色ある大学となるのか、少子化で人口が減少していく中で、大学間競争に勝ち残って学生を確保し続けられるのか、4 年制大学として目指すべき方向性、他大学との差別化、地域との共存共栄策等について、より具体的な方針を議会に対して分かりやすく丁寧に示していくよう求める意見が出されました。(仮称) 公立小松大学が他に誇れ、魅力ある大学となるよう、国、県としっかり連携し、慌てずに十分な議論を重ねていくよう強く求めました。

なお、以前から提示を求めている大学設立・運営にかかるイニシャルコスト、ランニングコストについては、4年制大学化を議論する上での最も重要な要素であります。早期に財政フレームを提示するよう強く求めました。

■次に、指定管理者について

指定管理者制度は、住民の福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設である公の施設について、民間事業者等が有するノウハウを活用することにより、住民サービスの質の向上を図っていくことで、施設の設置の目的を効果的に達成することを目的に設けられた制度であります。平成28年4月1日現在で小松市における指定管理者制度導入施設は252施設に上っているとのことですが、一部の委員より、各施設の性格や現状に応じた最適な管理手法について、直営や民間譲渡なども視野に入れた中で、今一度見直しを求める意見が出されました。